

活動テーマ

産官学連携による SDGs を活用した地域活性化活動  
ーバックキャスティング型の手法を通じた当事者意識の醸成ー  
小川町村青山地区 立教大学

## 1 活動目的

- ・2050年時点でのあるべき姿からバックキャストすることで、今取り組むべき課題を明らかにする。
- ・地域課題解決に資する地域資源を明らかにする。
- ・エコデザイン社新社屋コミュニティスペース活用を通じて地域住民と交流できている。

## 2 活動地域の現状

小川町は埼玉県の中東部に位置し、関東平野に最も近い里山である。豊かな自然と文化と歴史を有し、和紙や絹、建具などの伝統産業が残されていることから「武蔵の小京都」と呼ばれている。また、有機農業が盛んであることも国内外で広く知られている。しかし、1995年に37000人を超えた人口は減少を続け2023年2月は28170人となった。

## 3 活動内容

- ・若者の選挙への関心を高めるため、候補者に公開質問状を送付しその結果を掲載するHPを作成した。
- ・7月31日に小川高等学校において「未来カルテ」も用いたワークショップを行った。
- ・小川町の地域資源（自然資源、社会関係資本）調査を実施した。
- ・エコデザイン社新社屋に設置されるコミュニティスペースの活用法について検討した。

## 4 成果

- ・町長選挙、町議会議員補欠選挙に合わせて若者世代の政治への関心を高めることを目的としたHP作成した。

<https://kuga338.wixsite.com/my-site-4>

- ・7月30日に小川高等学校において「未来カルテ」を用いたワークショップを行い、その成果を学部紀要論文としてまとめ、資料集を作成した。

学部紀要論文

佐藤太、空閑厚樹 2023 「「ストック」のケアと主権者教育の視点から考える持続可能な町づくりへの取り組みー埼玉県立小川高校における未来ワークショップに基づく考察ー」『立教大学コミュニティ福祉学部紀要』25号

資料集

『2022年度小川町未来ワークショップ資料集』

[https://drive.google.com/file/d/1IkEvyuF9wrhney4sWDQ9ZlmH5fWj\\_m6y/view?usp=sharing](https://drive.google.com/file/d/1IkEvyuF9wrhney4sWDQ9ZlmH5fWj_m6y/view?usp=sharing)

- ・小川町の地域資源（自然資源および社会関係資本）調査を調査することで、現状、課題、可能性について基礎データを収集することができた。
- ・エコデザイン社新社屋コミュニティスペース活用法について検討を重ねることでエコデザイン従業員、立教大学学生、地域住民のニーズに焦点をあてたプログラム案づくりをすることができた。

## 5 課題

活動を通して明らかになった課題は、①活動環境変化への対応、②自主的活動の促進、および③活動の結果得られた知見の継承、の3点である。

①活動環境変化への対応に関する課題としては、新型コロナウイルス感染状況に合わせて活動プログラム内容を柔軟に変更していくことは、現地での活動協力者との連絡を取る回数を増やすなどして対応できたものの、ロシアのウクライナ侵攻の影響でエコデザイン新社屋完成が遅れ、当初予定していたコミュニティスペース活用活動は実施することができなかった。このような活動環境変化により、当初予定していた活動自体が実施できなくなる事態は今後も発生すると思われる。そのような場合を想定して代替となる活動案も準備しておくことでよりスムーズに対応が可能となると思われる。

②自主的活動の促進については、コロナ感染拡大以前は実施されていた学生自身による地域活動の計画、立案、実施を担う活動がみられなくなった。コロナ対策についても経験と知見が一定程度蓄積されたため、今後は学生の自主的活動を促進していく必要がある。

③活動の結果得られた知見の継承については、卒業生と在校生の交流の機会を意図的に設けることにより、より長期的な視点にたって活動に参加していくことが期待できると思われる。これまでも SNS 上での広報や情報交換、コロナ感染拡大前は対面での交流会も行ってきたが、定期的実施していくことでより効果が得られると思われる。

## 6 次年度以降の計画

2023年度は担当教員研究休暇のため、自主的活動および2024（令和6）年度活動準備を行う。

具体的には2023年春に竣工予定のエコデザインコミュニティスペース活用に現3年生を中心に活動する予定である。

